

YKK株式会社／YKK AP株式会社

〒101-8642 東京都千代田区神田和泉町1

URL <http://www.ykk.co.jp>

〈お問い合わせ先〉

YKK株式会社 環境・安全衛生グループ

〒938-8601 富山県黒部市吉田200

TEL:0765(54)8161 FAX:0765(54)8149

E-mail: [kankyo@ykk.co.jp](mailto:kankyo@ykk.co.jp)

YKK®

Social & Environmental Report 2015

# YKKグループ 社会・環境報告書2015

人類の豊かで健康な生活と環境との  
調和を目指して

## 表紙について

表紙テーマは、「地球環境と共生しながら、子どもたちが自然の中で笑顔で遊べる未来」です。

YKKグループは、次世代の子どもたちが豊かな社会生活を送ることができるよう、社会とかわり、課題を共有し解決に向けて取り組むことで社会の発展に貢献していきたいと考えています。

その思いを反映すべく、表紙で子どもたちの輪を、表紙に続く見開きで子どもたちの未来とYKKグループのものづくりを表現しました。



この報告書は森林認証紙を使用して印刷しています。

# ともに価値を創出する、 YKKグループのものづくり

YKKグループは、本業を通じ、地域社会、お客様、従業員とともに価値を創出し、共有できるものづくりにより、持続可能な社会を目指しています。



## 目次

2	トップメッセージ
4	YKKグループについて
6	YKKグループのものづくり
10	各極の取り組み
	• 日本
	• 北中米
	• 南米
	• EMEA (ヨーロッパ・中東・アフリカ)
	• 中国
	• アジア
22	環境への取り組み
26	ステークホルダー・ダイアログ
29	YKK精神と経営理念

### 編集方針

幅広いたくさんの方々がこの報告書を通じてYKKグループを知っていただきたいという思いから、基本的な考え方を記載した冊子版(本誌)と、数値情報などを開示するWeb版に分離し公表しています。

Web版もご覧ください。

<http://www.ykk.co.jp/japanese/corporate/csr/eco/report/index.html>

また、この冊子は紙のリサイクルに適した材料のみを用いて作成しています。不要となった際は、製紙原料となりますので、古紙回収・リサイクルが可能です。

### 対象範囲

YKKグループ(YKK株式会社、YKK AP株式会社、海外主要生産拠点など)

### 対象期間

2014年度(2014年4月1日~2015年3月31日)  
2015年6月発行 次回発行は2016年6月を予定しています。

配布場所: YKK黒部事業所内「YKK50ビル」受付、YKK APショールームにて配布しています。また、インターネットでは、エコほっとラインにて発送のお手続きを承っています。

<http://www.ecohotline.com/>

印刷: YKK六甲株式会社(YKKグループ 印刷事業特例子会社)

# 「YKK精神に基づく企業の社会的責任」

## YKKグループは本業を通じた 持続可能な社会への貢献に取り組んでまいります

YKKグループは、創業以来、“他人の利益を図らずして自らの繁栄はない”という思想のもとYKK精神「善の巡環」を全事業を貫く精神的支柱としてきました。企業は社会の重要な構成員であり、共存してこそ存続でき、その利点を分かち合うことにより社会からその存在価値が認められるものです。私たちは事業をすすめるにあたり、この点について最大の関心を払い、お互いに繁栄する道を考えてきました。それは事業活動の中で発明や創意工夫をこらし、常に新しい価値を創造することによって事業の発展を図り、それがお客様、お取引先の繁栄につながり、社会貢献できるという考えです。この「善の巡環」の精神を根幹とし、経営理念である「更なるCORPORATE VALUEを求めて」のもと、「公正」を行動の基軸として、世界71カ国／地域で現地に根ざした事業を展開しています。

### 企業市民としての社会的責任

私たちには、企業市民としての責任があり、公正な企業経営を実践していくためにもこの責任を真摯に受け止めています。今、私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。国際社会においても文化や慣習、考え方などの多様性を尊重し、事業活動を通して社会の発展に貢献する責務があります。エネルギー使用を少なくするものづくりを推進するとともに、小さなエネルギーで快適に暮らす「小エネ(ローエネ)」を追求し、これを高いレベルで実現することは未来への責務だと考えています。YKKグループは、YKK精神「善の巡環」、そして経営理念「更なるCORPORATE VALUEを求めて」の実践を通して、これからも本業を通じた持続可能な社会への貢献に取り組んでまいります。

YKK株式会社 代表取締役会長CEO  
YKK AP株式会社 代表取締役会長CEO

吉田 忠裕



## 「持続可能な社会づくり」に貢献

YKK株式会社の実践するグローバル事業経営は、YKK精神「善の巡環」、経営理念「更なるCORPORATE VALUEを求めて」のもと、一貫して「公正」であることを、経営における行動指針としています。

海外展開においては、その国で「土地っ子になれ」を合言葉に、その国に根付き、現地のマーケットや顧客に応じた事業活動に知恵を絞り、現地人材を雇用・育成・登用して、経営を委ねるなど、「信用・信頼」を基盤にした、社会との長期にわたる強い関係づくりの中で、ビジネスの成長を通して地域社会に貢献してまいりました。

環境活動においても、世界71カ国／地域を網羅する情報連絡体制、責任体制を整備するとともに、国ごとに異なる環境関連法への対応を確実にするために、地域単位でのコンプライアンス体制を構築しています。

エネルギー改革の推進、「YKK Group Tree Planting Day」などによる多様な生態系の保全、資源の有効利用等、環境負荷の低減に努めています。

また、生活に密着した商品を製造・販売していることから、お客様のみならず、最終消費者のニーズも追求することで、YKKの商品が衣類や産業資材などの付加価値向上に貢献できるよう、お客様にとって価値ある「品質」を実現するためのものづくりを進めてまいりました。

YKK株式会社はこれから更に商品力と提案力、それを支える技術力をもって、人と社会へ価値を提供し、事業活動を通して地域社会に貢献し、持続可能な社会づくりを目指してまいります。



YKK株式会社  
代表取締役社長  
YKK環境政策委員会  
委員長

猿丸 雅之

## 「商品からものづくり」まで

YKK AP株式会社は、快適な住空間を創造する「窓やドア」、美しい都市景観を創造する「ビルのファサード」など、さまざまな建築用プロダクツを通して、これからの時代にふさわしい事業価値を創造し、暮らしと都市空間に、先進の快適性をお届けする企業を目指しています。

昨今では電力の需給問題に際して、住環境における省エネ性能が特に重要視されています。YKK AP株式会社は、「メーカーに徹する」という方針のもと、生活者視点でのものづくりにこだわり、家庭やオフィスのエネルギー削減に向けて遮熱、断熱、通風など省エネ機能を高めた商品を積極的に開発し、地球環境にも優しい快適な住環境を創り出したいと考えています。小さなエネルギーで快適に暮らす「小エネ(ローエネ)で暮らそう」をコンセプトとし、高い断熱性能を持つ窓を中心に、その周辺の商品も含めた窓辺空間を考え、使い方と合わせて提案していきます。

また生産工程においては、生産ラインの更なる効率化と工場の耐震・省エネ化を図るとともに、商品輸送時の効率化、ゼロエミッション活動を展開することにより、低炭素・循環型社会の実現に寄与し、自然環境と調和する“ものづくり”を目指します。

商品と品質、そしてものづくりにこだわり続けるメーカーとして、住宅環境の更なる向上につながる商品をお届けすることで、新しい価値を創造し、より豊かな社会づくりに貢献していきたいと考えています。



YKK AP株式会社  
代表取締役社長  
YKK AP環境政策委員会  
委員長

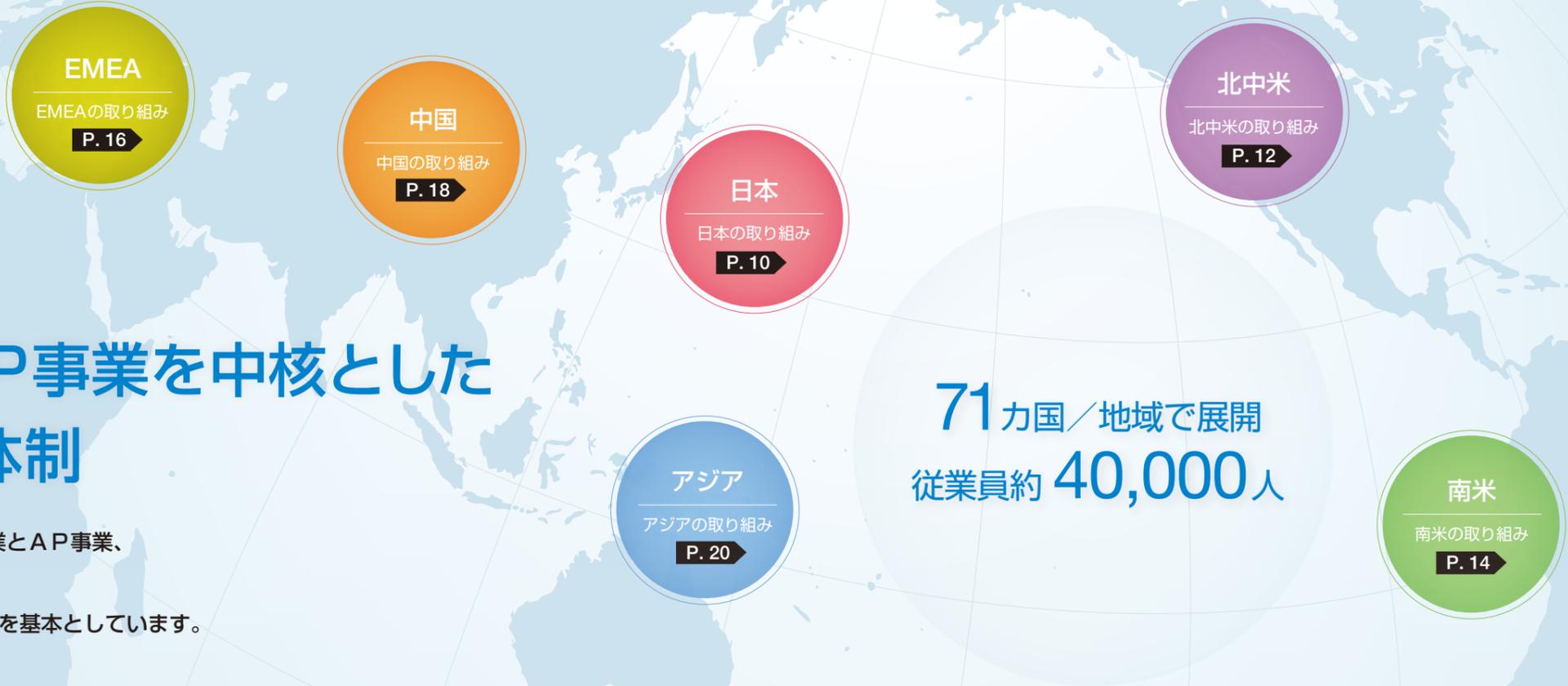
堀 秀充

YKKグループ

**事業内容** ファスニング・建材・ファスニング加工機械及び建材加工機械等の製造・販売

**グローバル体制** 71カ国／地域 111社  
国内24社 海外87社

**従業員** 42,154名  
(国内17,330名 海外24,824名)  
(2015年3月末現在)



# ファスニング事業・AP事業を中核とした グローバル事業経営体制

YKKグループの経営体制は、中核となるファスニング事業とAP事業、そして両事業の一貫生産を支える工機、3者によるグローバル事業経営と、世界6極による地域経営を基本としています。



**YKK株式会社**  
「持続可能な社会づくり」に貢献  
生活に密着した商品を製造・販売していることから、お客様のみならず、最終消費者のニーズも追求することで、YKKの商品が衣類や産業資材などの付加価値向上に貢献できるよう、お客様にとって価値ある「品質」を実現するためのものづくりを進めています。

**YKK AP株式会社**  
「商品からものづくり」まで  
快適な住空間を創造する「窓やドア」、美しい都市景観を創造する「ビルのファサード」など、さまざまな建築用プロダクツを通して、これからの時代にふさわしい事業価値を創造し、暮らしと都市空間に、先進の快適性をお届けする企業を目指しています。

## 世界6極経営体制で事業展開をしています。

YKKグループは、世界6極による地域経営を基本とし、現在71カ国／地域で事業活動を行っています。その経営体制は、世界の事業エリアを北中米、南米、EMEA(ヨーロッパ・中東・アフリカをカバーするエリア)、中国、アジア、そして日本の6つのブロックに分け、地域ごとの特色を活かしながら各社が主体となってグローバル事業経営を展開しています。

## ファスニング事業



### Highlight

● 年間生産量

200万km以上  
(地球50周分)

## 原材料から商品まで「安全・安心」



生産工程での有害物質使用や工場での労働災害がアパレル業界で問題となっています。ファスニング事業では、原材料調達から商品に至る全工程を通じて、社会・環境に配慮したのものづくりに取り組んでいます。

創業当時からYKKファスナーは徹底した品質管理と供給体制により、世界各地で信頼を確立してきました。開閉という機能を追求しつつ、「安全・安心」という面での品質にもこだわり続けています。

ファスニング事業においては、CSR調達に取り組む企業のニーズに対し、原材料調達から商品に至る全工程を通じて、「有害物質を含まない」「不適切な製造工程や労働環境にかかわらない」ことを徹底しています。

また、商品の開発段階から環境性能評価を行うほか、更なる取り組みとして、水の代わりに二酸化炭素を使ってファスナーやその材料を染める「無水染色」技術の開発を進めています。

さらに、原材料の調達から商品まで、すべての工程で環境や社会に配慮したのものづくりを行っている証として、2つの商品群で bluesign® 認証\* を得ています。

\* 繊維加工のサプライチェーンを通じた環境・安全衛生、省資源を証明する仕組み。

### Keyword

#### CSR調達

社会・環境に配慮したのものづくりをサプライチェーン全体で推進する取り組みです。

## AP事業



### Highlight

● AP事業のエコ商品開発比率(2014年度)

100%

## 健康で「小エネ(ローエネ)」な暮らしを提案



環境配慮だけでなく健康という観点からも、「窓」による断熱性能の高い家づくりが注目されています。YKK APが担うAP事業では、自然の恵みを利用しながら、小さなエネルギーで健康かつ快適に暮らす住まいを提案しています。

近年、夏の「暑さ」や冬の「寒さ」がもたらす健康リスクが問題視される中、YKK APでは、住宅における最大の熱の出入り口である「窓」の断熱性を高めることで、冷暖房使用を抑えながら健康かつ快適に過ごす「小エネ(ローエネ)」な暮らしを提案しています。それを実現する樹脂窓をはじめとした高い断熱性能をもつ窓商品に加え、省エネに配慮したカーテンウォール商品などの開発、溶接を用いないサッシ施工方法「非溶接工法」など環境負荷の少ない建築技術開発に力を入れています。海外でも、各地の気候やニーズに合わせた商品・サービスの提供により、グローバルブランドとして認知度を高めています。

さらに循環型社会構築のため、廃棄物等の発生抑制、再利用、再生利用の3R活動に取り組んでいます。商品だけでなく、ものづくりの過程でも、持続可能な社会づくりに貢献します。

### Keyword

#### 樹脂窓

熱の伝わりやすさがアルミの約1,000分の1である樹脂をフレームに使い、高い断熱性能を発揮します。



Highlight

● 新工場のエネルギー使用量削減目標

25%

## グループ事業競争力の向上に向けて



工機技術本部は、YKKグループの技術開発機能の中核として、「機械開発」と「機械製造」の両面から、グループの成長・発展に貢献しています。

YKKグループは、材料から製造設備、製品に至るまでの一貫生産体制により、グローバルに成長してきました。

工機技術本部では、材料開発、設備開発、機械部品製造により、ファスニング事業・AP事業の「製造現場に適応する設備開発」を重要方針として、技術開発力を強化し、グループ全体の高い製品品質とコスト競争力を支えています。

5年後10年後を見据えた将来のものづくりに対応できる工場とすることを目指し、工機工場(ファスナー専用機械部品工場)の建設を着工、2015年12月に操業を予定しています。精密機械部品の安定生産を担保するための高度な温度・湿度・振動管理の実現と積極的な自然採光により社員の働きやすさとを両立する「窓のある精密機械工場」へ挑戦します。

新工場の稼働により、生産リードタイム50%短縮、生産コスト20~30%引き下げを目標とするほか、自然採光や黒部川扇状地の表層地下水の活用などを通して、年間でエネルギー使用量25%、工業用水使用量70%の削減を図ります(2012年度比)。

Keyword

一貫生産体制

求められる品質の実現のために最適な材料を自らつくり、設備も自社開発する体制。



Highlight

● YKKグループの事業展開

71カ国/地域

## 多様な人材で大きくなる



背の高い木も、低い木も。それぞれの個性によってその得意とする能力を発揮できる人事制度の実現と人材育成、ダイバーシティに対応した職場づくりに取り組んでいます。

YKKグループでは、人事理念「自律と共生」をベースに、年齢・性別・学歴・国籍・障がいの有無などに関係なく、実力や意欲に応じて任された役割において、社員一人ひとりが十分に力を発揮できる制度や環境づくりを進めています。

YKKグループには、「森林集団」という、創業者 吉田忠雄から受け継いできた考え方があります。「森林の中には、経験を積んで年輪を重ねた太い木も、若くて細い木もあります。背の高い木、低い木もあります。人によってそれぞれの個性によってその得意とする能力を発揮して働き、一緒に前進します。」社員一人ひとりが自律的に働けるよう、YKKグループは真に公正な人事制度の実現と人材育成に取り組んでいます。

Keyword

ダイバーシティ

国籍や性別、年齢など多様なバックグラウンドを持つ人材と一緒に、より良い組織を目指す考え方です。



子どもや学生、消費者など、幅広い人々にYKKグループの商品に親しんでもらうさまざまな体験型イベントを企画・開催するほか、ものづくりにかかわる学生やデザイナーと積極的に協働しています。

また、ものづくりの技術や環境の取り組みについて広く社会に発信することを目的に、YKKセンターパークを中心に産業観光に取り組んでいます。

JAPAN

## 次世代に伝えるものづくり

### 広がるファスナーの可能性

YKKは、幅広い年齢層の人々にものづくりの楽しさを伝え、ファスニング商品に親しんでもらうよう、さまざまな企画やイベントを開催しています。

ファスナーやスナップ・ボタンなどを使った布製の絵本「布絵本」を製作し、500冊を黒部市に寄贈したほか、被災地福島や東京・千代田区内の施設にも寄贈しました。「YKK布絵本」はファスナー開閉動作などを通じて子どもたちが着替えや歯磨きなどの生活習慣を楽しく遊びながら身につけることができ、そのアイデアの面白さや発育発達も考慮した視点が評価され、「第8回キッズデザイン賞」(主催:キッズデザイン協議会)を受賞しました。製作にはYKK六甲(株)や障がい者職業能力開発校、特別支援学校にもご協力いただきました。

また、「ものづくり館 by YKK」では、ファスナーやボタンなどを展示するほか、ワークショップなどの手作りイベントを定期的で開催しています。



「ものづくり館 by YKK」ワークショップ



YKK商品を使った「布絵本」

### Topic

### 「キッズニア東京」に協賛

キッズニアは、楽しみながら社会のしくみを学ぶことができる子ども向けの職業・社会体験型施設です。本格的な設備や道具を使って、90種類以上の仕事やサービスを体験することができます。YKKは、身近なファスナーを通して日本のものづくりを体験してもらいたいとの考えから、「キッズニア東京」期間限定イベント「匠のものづくりフェア」(2014年10月1~15日)に協賛し、ファスナーづくりの仕事体験などファスナーを使った各種プログラムを提供しました。



「キッズニア東京」で実施した「ファスナー職人」体験

### 黒部から発信する、新しい暮らしと働き方

2015年3月、東京と金沢を結ぶ北陸新幹線が開業し、YKKグループ本社のある東京と技術の総本山である黒部事業所とが約2時間半で往来できるようになりました。

北陸新幹線の開業は、北陸と首都圏との距離を縮め、東京一極集中緩和に向けた企業の地方移転の機運が高まると期待されています。

こうした動きを受け、YKKグループは災害リスクの分散なども視野に、数年前から黒部事業所への本社機能の一部移転を進めています。本社機能一部移転の取り組みの他に、社員寮などの住環境の整備を進めると同時に、地域全体のまちづくりも始めています。そのひとつが、パッシブデザインに基づく自然環境を活かしたまちづくり、「パッシブタウン黒部モデル」です。パッシブデザインとは、建物性能を高め、太陽や風などの自然エネルギーを活用して冷暖房使用を抑制しな

がら、快適な室内環境をつくる建築設計手法のことを指します。化石燃料への依存を抑えた、集合住宅と商業施設が一体化したまちづくりを通じて、黒部の特色を活かした豊かな暮らしを未来に向けて提案します。

同じく自然の光・風・熱・水を積極的に取り入れた「YKK AP R&Dセンター」、「窓のある精密機械工場」(関連情報:8ページ)の建設も進行中です。

2015年4月には、YKKセンターパークをリニューアルし、YKK 50ビル オフィス機能を高めると同時に、産業観光施設をより見学しやすく改修しました。

黒部から世界へ。地域に開かれ、自然と調和する、地球にも人にもやさしい暮らしと働き方を積極的に発信していきます。



リニューアルしたYKKセンターパーク



YKKセンターパーク外観



2016年4月開設予定のYKK AP R&Dセンター(完成予想図)

### ● パッシブタウン黒部モデル

富山県黒部市のYKK茅堂社宅跡地に、2025年までに計8街区・250戸の複合型賃貸集合住宅を整備します。



第1期街区完成イメージ(2016年2月完成予定)

### コンセプト

- 21世紀の持続可能な社会にふさわしい、化石燃料に依存しないまちと住まい
- 地下水や自然エネルギーを積極的に取り入れた、地球に優しい快適な暮らし
- 黒部の気候風土と自然環境を活かすランドスケープ
- 地域と共生し、コミュニケーションが活性化する、開かれたまち
- 仕事と生活が調和する、働きやすい、住みやすいまち

北中米では、現地の開発能力を活かして、自動車や難燃作業服、化学防護服などの安全分野に向けたファスニング商品のほか、現地の気候に適した窓商品の開発に取り組んでいます。また、各事業所での環境保護の取り組みに加えて、地域全体の環境マネジメント体制を整備し、サステナビリティを中核に据えた事業の運営を図っています。

# NORTH & CENTRAL AMERICA

## 信頼と期待に応え続ける

### サステナビリティを事業の中核に

2014年に40周年を迎えたYKK U.S.A.社メーコン工場では、設立当初より地域社会との共生を第一に、持続可能な事業運営に取り組んできました。現地の環境・化学物質規制の遵守に加えて、従業員が自主性を発揮して更なる環境負荷の削減に取り組んでいます。その例が、染色工程における環境対応型薬品への変更です。また、ユーティリティー使用量をリアルタイムで監視するシステムを導入し、省エネへの取り組みを開始しました。

YKKカナダ社でも、資源の回収や省エネなどに取り組んでいます。事業所内には従業員の出身地である37カ国の国旗が飾られているほか、従業員に子どもが生まれるたびに木を1本植えるなど、多様性を成長の糧とする「森林経営」を意識した取り組みが行われています。



従業員の出身地の国旗 (YKKカナダ社)



YKK U.S.A.社 40周年記念ロゴ

Topic

### 環境コンプライアンス委員会の活動

北中米地域では、YKKコーポレーション・オブ・アメリカ(YCA)環境コンプライアンス委員会(ECC)が中心となって環境監査を行っています。監査は、施設の規模などに応じた頻度で、定期的実施されます。こうした取り組みは、コンプライアンスだけでなく、環境対策やサステナビリティ、生産管理全般にかかわるベストプラクティスの共有にも役立っています。



サステナビリティへの貢献に対する表彰

### 災害の現場を支える商品の開発

ファスニング事業では、アパレル向けの商品以外に、難燃作業服、化学防護服などの安全分野や産業資材など高い気密性と耐久性が要求される特殊な用途向けの商品も提供しています。

その例のひとつが、YKK U.S.A.社やYKKカナダ社が中心となって開発と改良に取り組んできた「難燃ファスナー」です。この商品は、デュポン社のノーマックス®(難燃繊維)をテープ生地に使ったもので、務歯は金属製と樹脂製から選ぶことができます。

また、エボラ出血熱の治療現場用の医療用テントや格納シエーターなどにも、YKKの高機能ファスナーが使われています。あわせて、提案力の強化にも努めています。かつては数週



YKKカナダ社で開発・改良した「難燃ファスナー」



医療用テント

Topic

### ISOFIXへの対応

米国では2002年9月より、同国で販売される乗用車すべてに、ISOFIX規格によるチャイルドシート取付具の装備が義務付けられています。その目印用にマーカーが取り付けられています。YKKはISOFIXのロゴ入りボタンとともに、取り付け機を開発し、乳幼児の安全に配慮する自動車メーカーとシートメーカーをサポートしています。



### 増加する断熱商品需要に応える

YKK APアメリカ社は、市場回復による需要増に対応するため、テキサス州とジョージア州の2カ所で新しい工場を、それぞれ2014年7月と2015年1月に操業開始しました。テキサス州の加工工場は米国南西部向け供給拠点としてビル用商品の生産能力の強化を図る一方、ジョージア州メーコン工場敷地内に移転・増設された窓工場は主に住宅用樹脂窓商品の増販に対応します。

近年は米国内の断熱性能基準も変化し、米国のLEED基準\*に対応したビル用商品や、南部沿岸地域においても断熱性能が求められてきており、これらの要求に応えるためハリケー

ンに対する衝撃に強く、かつ断熱性能を備えた商品の開発を行っています。また、2015年1月に改定されたEnergy Star基準を満たす住宅用樹脂窓を提供する会社としても認知度が高まっています。

\* 米国グリーンビルディング協会(U.S. Green Building Council)によって開発・運用されている建築物の環境配慮基準の認証制度



YKK APの窓が採用された住宅とビル

Topic

### ファサードに調和するハリケーン対応断熱窓を発表(YKK APアメリカ社)

YKK APアメリカ社は、最新の商業施設向けハリケーン対応断熱窓「YES SSG TUH」を2014年6月に発表しました。同商品は、ビル全体のデザインと調和しやすく、高い断熱性と耐衝撃性、耐久性を有するため、幅広い建築物に対応できます。高い機能性とデザイン性が評価され、2014年11月、アメリカの建築雑誌「ARCHITECTURAL RECORD」のNew Product of the Year 2014(Editor's Choice)賞をいただきました。



ハリケーン対応断熱窓「YES SSG TUH」



南米では、生産や安全などの専門知識・技術の研修に加えて、総合的なキャリア形成を視野に入れた独自のプログラムで人材育成に取り組んでいます。また、従業員が学んだことを同僚や家族に共有するなど、社会全体に「学び」を分かち合うことで、より豊かで持続可能な社会の実現を目指しています。

# SOUTH AMERICA

## 学びの体験を共有する

### 次世代リーダーの育成

南米各社では、地域全体を統括する人事部が中心となって、将来を担う人材の育成に取り組んでいます。

2014年から新たに導入された「リーダー育成プログラム」では、計42名の管理職候補の従業員が2014年1月から3月にわたりマネジメント研修を受けました。その後、研修内容をもとに各自がチームワーク改善に向けた提案を行いました。これらの提案は同年8月にかけて検討され、一部は実際に採用されています。さらに、2015年は管理職、2016年は役員も参加した同様のプログラムを実施する予定です。

一方、22歳以下の従業員に関しては、「YKK新社会人プログラム」として、全国工業職業訓練機関 (SENAI) とコースプログラム (Guarda Mirim) にご協力いただき、キャリア形成、CSR、グローバル化、英語、コミュニケーションなどに関する研修を行いました。



「YKK新社会人プログラム」の修了生



研修生の提案により設置された掲示板



社会人向けコースを紹介する大学職員

Topic

### 従業員の学習を支援 (YKKブラジル社)

YKKブラジル社は、社内の人材育成プログラムに加えて、地元の教育機関などと提携して従業員の学習を支援しています。ソロカバ工場では、社会人向けの技術・言語・IT・学士・修士・MBAコースに関する情報コーナーが設けられ、授業料補助制度に関する説明も聞くことができます。2015年3月までに従業員36名がこの制度を利用しています。

### 従業員参加型で「安全」と「健康」を促進

南米各社では、「労災防止委員会」が中心となって全体的な安全推進に取り組んでいます。同委員会は、従業員の投票で選ばれた6名と会社が任命した6名の計12名で運営されています。

日々の業務においては、従業員で分担して安全管理を行っています。そのための研修も定期的実施されており、2014年は電気設備の保守・保全と労働安全衛生に関する規則、消防に関する研修のほか、薬品流出事故の緊急対応訓練が行われました。

また、作業効率向上と事故・疾病予防を目的に、各事業所でスポーツ活動や健康体操を実施しています。



● YKKブラジル社  
週3回、健康体操を実施しています。



● YKKアルゼンチン社  
会社敷地内でバレーボールを行いました。

Topic

### ユーモアを交えて意識啓発

南米各社では、毎年5月第3週を「労災防止週間」として、各事業所で防災訓練や意識啓発などを行っています。YKKブラジル社では、化学物質の取り扱いと個人防護具の装着、保守点検に関してユーモラスな劇も交えて講義が行われました。



「労災防止週間」イベント

### 環境の大切さを学び、教える

YKKグループでは、毎年6月5日の「世界環境デー」に合わせて、YKK Group Tree Planting Day (植樹) などのイベントを世界の各拠点で行っています。

南米各社では、「世界環境デー」のある週を「環境週間」として、従業員だけでなくその家族も招いてさまざまなイベントを行っています。2014年は植樹と工場見学のほか、リサイクル材を使った玩具・アクセサリ作りや子ども絵画コンテスト、環境フォトコンテストを行いました。また、生物多様性・生態系保全に加えて、健康な食生活に関する講演がありました。



「環境週間」に工場見学に来た子どもたち



YKK Group Tree Planting Day

Topic

### 環境教育(ESD\*)活動の実施 (YKKブラジル社)

YKKブラジル社は、工場が立地するソロカバ市が主催する環境教育プロジェクト「Naturando」に協賛し、7~11歳の子どもを対象に、「世界とつながろう (Coopera Mundo)」をテーマに社会環境授業を行いました。また、市が計画する産業廃棄物再利用プログラムに賛同し、工場のリサイクル材を子どもたちの遊具づくりに提供しました。

\* Education for Sustainable Development (持続可能な社会づくりのための教育)の略



Naturandoに参加した子どもたち



欧州を中心とするEMEA地域では、市場の成熟に合わせ、多様化するニーズを満たすファスニング商品の開発に注力しています。また、より多くの服飾デザイナーに商品を知ってもらうと同時に、商品の新しい価値や用途を見出す観点から、地元の学校や業界団体が主催する作品展などにも積極的に参画・協賛しています。

EMEA

## 歴史を進化させ、イノベーションを続ける

### 次の50年に向けて

YKKオランダ社は、2014年7月に設立50周年式典を開催しました。同社は、1964年4月にYKKグループにおけるヨーロッパ初の現地法人としてオランダのスネーク市(現スドウェスト・フリースラン市)に設立されて以来、EMEA地域におけるファスニング事業の拠点として、地域に根差したビジネスを展開してきました。

式典には、同社と関係の深い現地企業に加え、スドウェスト・フリースラン市、在オランダ日本国大使館、フリースラント州、オランダ経済省、北オランダ投資開発局、在オランダ日本商工会議所所属の日系企業や、スドウェスト・フリースラン市と姉妹都市提携している富山県黒部市、ならびにYKKの関係者および従業員とその家族など、138名が出席しました。

式典では、YKKオランダ社およびYKKグループの歴史についての紹介の後、オランダの著名な経済学者であり

フローニンゲン大学教授のリン・セーハース(Rien Segers)氏による特別記念講演や、代表者による記念植樹、晩餐会が行われました。



記念植樹

Topic

### 更なるファスナーの革新に向けて

欧州を中心としたEMEA地域では、「ハイファッション」を重点分野のひとつとして、高付加価値商品の開発に取り組んでいます。新たな素材の探求にも力を入れており、人工皮革スウェードの最高峰であるアルカンターラ生地を使用した世界唯一のファスナー「アルカンターラテープファスナー」などの開発を行っています。

今後も、デザインの自由度を高める革新的な商品の開発に取り組めます。



アルカンターラテープファスナー

### 新しい才能とファスニング商品の可能性を発掘

YKKは各地で服飾専門学校などと提携し、ファスニング商品の無償提供や作品展への協賛を通じて、多彩なファスニング商品に対する認知度向上と商品の新しい用途開発を図っています。

たとえばフランスでは、代表的な服飾学校のひとつであるEsmod(エスモード)と提携し、卒業制作展支援に加えて、院生を対象にしたファスニング講座を毎年提供しています。ファスナーの基礎知識と商品を使いこなすための応用知識がセオリーと実践の両面から学べるとして、学生から好評を得ています。

また、ポーランドでも地元の芸術学校 Academy of Fine Art in Łódź(ウッチ)と提携し、卒業制作展を毎年支援しています。2014年の卒業制作展では、その翌日にファスニングの1日ワーク



作品について学生と意見を交換する加賀美氏

ショップを開催し、YKKのアドバイザーを務めるデザイナーの加賀美 敬氏が出展された作品などについて学生と意見を交換しました。

Topic

### ウェビングテープを使った制作(YKKドイツ社)

2014年7月、欧州各地の若手建築家とアーティスト約60名がアールヌーヴォー建築で有名なダルムシュタット市(ドイツ)に集まり、実験建築プロジェクトに参加しました。その一環として作られた椅子に、YKKが提供した色とりどりのウェビングテープが使われました。



ウェビングテープを使った椅子

### 地域の教育支援と雇用促進に貢献

南アフリカでは、若年層を中心に失業と教育の格差が問題となっています。そのため、YKKサザン・アフリカ社は、地元のNPOや専門学校などと協働した教育支援活動に取り組んでいます。

たとえば、孤児の自立を支援するNPO、Lungisisa Indlela Village(LIV)に併設された縫製工場に対し、2014年11月、小物や服飾品の製造に使える折り曲げ可能なテープを無償で提供しました。

また、政府公認の職業訓練学校Siyaya Skills Instituteと協働で、20名の障がいを持つ若者に対し、2014年12月より1年間の職業訓練プログラム受講を支援しています。プログラムは、卸売業・小売業に関する基礎知識(経理・予算管理、顧



LIV内部の縫製工場



スポンサーロゴTシャツを着て職業訓練プログラムを受講する若者たち

客対応、コミュニケーション、商取引、在庫管理など)の座学と実地訓練を組み合わせた内容となっています。

これからも、さまざまな方法で教育支援活動を続け、現地の教育水準向上と雇用促進に貢献します。

Topic

### 環境に優しい金属加工技術を紹介(YKK地中海社)

2014年9月、アスコリ・ピチエーノ市(イタリア)で開かれた、ファイザー社主催による環境展示イベント「Green Day」に参加し、シアン化合物を使わないメッキ加工プロセスの研究や洗浄水の処理と再利用の取り組みなどを紹介しました。このイベントには、エネルギー、水、リサイクル、生産プロセス、素材などの分野で活躍する企業や研究機関などが出展し、多くの企業・大学の関係者が来場しました。



YKK地中海社の展示ブース



生活の質にかかわる「環境」と「健康」に対する関心が高まっている中国では、省エネに貢献する窓商品や環境配慮型ファスナーの紹介に注力しています。また、工場内の環境への取り組みを地元の企業や学校などを通じて広く発信するなど、地域とともに、より豊かで持続可能な社会づくりを目指しています。

## ベストプラクティスを共有する

### 「快適な生活は窓品質から」

中国A P事業部は、2008年から7年連続で「中国国際窓・カーテンウォール博覧会」に出展しています。2014年11月の博覧会では、「快適な家庭生活」をテーマに商品の展示を行ったほか、施工実演も行いました。また、同時開催された「中国国際窓・カーテンウォールフォーラム」にYKK A P大連社R&Dセンターの社員が「窓の最終品質の実現と維持」と題する講演を行いました。

他にも、2014年12月には中国初のプレゼンテーションルーム「中国商品提案中心・大連」を開設し、商品の省エネ性能についてお客様に情報発信するなど、積極的な提案を行っています。



中国国際窓・カーテンウォール博覧会  
施工実演の様子



中国商品提案中心・大連の立面図



中国国際窓・カーテンウォールフォーラム

Topic

### 「門窓工場」竣工(YKK A P蘇州社)

YKK A P蘇州社が建設を進めていた新工場棟「門窓工場」の工事が完了し、2014年12月に竣工式を行いました。

新工場の稼働に合わせて、窓を加工・施工する技術者を育成するための「施工研修所」も新設しました。中国事業の特徴である、中国国内での窓商品の開発、形材と部品の一貫生産および加工と施工のノウハウを強化することにより、施工を含めた商品の最終品質向上を図ります。



「門窓工場」外観

### 「融・合」をテーマに多彩な商品を展示

上海YKKジッパー社は、展示会への出展やショールームなどさまざまな機会を通じて、多彩なファスニング商品を知ってもらうよう取り組んでいます。

2014年10月に上海で開催された「中国インターテキスタイル博覧会2014」への出展では、「融・合」をテーマに、「時間の融合(過去～現在～未来)」と「人と自然の融合」を表現する展示を行いました。再生材を利用した樹脂ファスナーのほか、蛍光ファスナーや防水ファスナーなど、ファッション性と機能性を追求した多彩な商品を出展し、約500社、千名以上にご来場いただきました。



上海YKKジッパー社の展示



Topic

### 「YKK東華杯」10周年(上海YKKジッパー社)

上海YKKジッパー社は、2005年より東華大学と共同で院生デザインコンテスト「YKK東華杯」を開催しています。10周年を迎える今回のコンテストは、「上海国際アパレル文化祭2014」(2014年4月)の一環として行われ、計96点の作品が展示されるなど、最大規模の催しとなりました。



「YKK東華杯」出展作品

これからも、同コンテストの開催を通じて新しい才能の発掘に取り組む方針です。

### 地域とともに歩む会社として

YKK A P蘇州社は、2005年より、毎年、地元の唯亭小中学校と共同で環境保全活動に取り組んでいます。金鶏湖周辺の清掃活動や植樹活動のほか、「世界環境デー」に合わせて住民への環境小冊子の配布を行っています。また、2014年11月には、唯亭小中学校の生徒37名を会社に招待し、植樹式を行ったほか、排水処理に関する体験教育を行いました。

こうした活動は地元自治体からも高い評価をいただき、YKK A P蘇州社は2014年6月、蘇州市工業園区環境保護局より「蘇州市工業園区環境教育実践基地」の認定を受ける6社のひとつに選ばれました。



排水処理について学ぶ  
子どもたち



金鶏湖清掃活動

Topic

### 地元企業に排水処理施設を紹介(YKKスナップファスナー無錫社)

無錫新区建設環境保護局により、YKKスナップファスナー無錫社を含む3社が2014年の環境管理模範企業に選ばれ、地元の企業300社以上の見学を受け入れました。見学では、工場長による挨拶の後、工場の排水処理施設のほか、排水処理にかかわる管理システムや水質分析室を紹介し、水質管理をはじめとする環境マネジメントについて意見を交換しました。



見学の様子



ASIA

経済が急成長するアジアでは、主に地元の学校を通じて、子どもたちの学びと健やかな成長をサポートする活動を行っています。

アジア地域は文化や価値観も多種多様ですが、YKKグループのコアバリューに基づきながら、それぞれの土地に根差した方法で未来につながる基盤づくりを進めています。

## 子どもたちの健やかな成長をサポート

### サッカーを通じた教育支援活動

YKKホールディング・アジア社は、アジアグループの地域貢献活動として、地元の子どもたちにサッカーの楽しさを伝える「キッズフットボールクリニック」を2007年より毎年開催しています。

8年目となった2014年は、2012年からご協力いただいているリアル・マドリッド財団と提携し、チッタゴン市（バングラデシュ）とホーチミン市（ベトナム）の2カ所で開催。リアル・マドリッドのコーチの指導のもと、それぞれ3日間にわたり、現地のサッカーコーチ約30名と10～14歳の子ども約250～300名がサッカーの手ほどきを受けました。

終了後、参加した子ども全員にサッカーウエア一式が配られました。また、イベントで使用したサッカーボール、トレーニング器具などは地元のサッカーチームや学校へ寄贈しました。



チッタゴン市  
(2014年10月30日～11月1日)



ホーチミン市(2014年11月7～9日)



詳細は下記ウェブサイトで紹介しています。  
<http://www.ykkasia.com/regional.htm>

Topic

### 「安全なジッパーに交換しよう」キャンペーン(YKKフィリピン社)

2014年5月、YKKフィリピン社は新学期を迎える地元の小中学生を対象に、「安全なジッパーに交換しよう」キャンペーンを行いました。非政府組織Eco Waste Coalitionにご協力いただき、子どもたちの制服やかばんのファスナーを点検し、200本以上のファスナーをYKK製の有害物質フリーのものに交換しました。この活動はさまざまなメディアに取り上げられ、鉛などの有害物質の危険性に対する認識を高める機会となりました。



ファスナーを取り付ける洋裁ボランティア

### ASEAN向け新基幹商品「NEXSTA」を発売

YKK APは、ASEAN地域向けの窓商品「NEXSTA」シリーズを新たに開発しました。「NEXSTA」はNext Stage(次世代)の頭字語で、「ASEAN向けの次世代商品」という意味が込められています。2014年4月にインドネシアで発売して以降、販売地域をマレーシア、タイ、ベトナムに広げ、好評をいただいています。

「NEXSTA」発売に先立ち2014年3月、YKK APインドネシア社は、BCI Asia\*主催のArchitects' Choice Awards 2014(ドア&窓部門)で大賞を受賞しました。

今後も「NEXSTA」を中心に、ASEAN地域の住生活環境向上に貢献していきます。



「NEXSTA」

\* BCI Asia: 建設業界の情報サービスを提供するBCI Media Groupのメンバー会社

Topic

### 緑のファサードで、未来のビルづくり(YKK APシンガポール社)

2014年12月シンガポールに完成した「キャピタグリーン」は、「グリーン=環境」をテーマにしたオフィスビルで、YKK APシンガポール社はカーテンウォールの施工を担当しました。このビルのデザインはプリツカー賞を受賞した伊東豊雄氏、設計施工は株式会社竹中工務店です。



キャピタグリーン

シンガポール建築建設局による「Green Mark認証」の最高評価であるPlatinumを獲得したこのビルは、外装に断熱性の高いシステムを採用しており、ガラスの内側にブラントナーを組み込んだ「グリーンファサード」も一部で採用するなど、建物内の熱効率を向上させ、建物全体でのエネルギー使用量削減効果が期待されています。

### グローバル市場の生産拠点として

更なる成長が見込まれるアジア縫製市場での量的拡大に向けた拠点として、YKKジブコ・インドネシア社では、アジア初の銅合金ワイヤー生産拠点となる「インドネシア銅合金ワイヤー工場」が2014年12月に稼働しました。

銅合金ワイヤーはこれまで日本と米国でのみ製造してきましたが、加工輸出向け金属ファスナーの市場拡大に応えるため、縫製市場により近い立地での工場稼働に踏み切りました。当面はアジアと中国にワイヤーを供給して、ファスナーのリードタイム短縮化を図ります。

YKKベトナム社でも、地元の縫製産業の急成長に応え、

第2工場(ニョンチャック)に隣接するスペースに新たにファスナー工場を増築する工事が2014年12月に始まりました。

これからも、東南アジア地域における一層の需要拡大に応えられるよう、供給基盤の強化に取り組めます。



YKKジブコ・インドネシア社工場



増築されるYKKベトナム社ニョンチャック工場(完成予想図)

Topic

### 工場内に託児所を開設(YKKバングラデシュ社)

2014年5月、YKKバングラデシュ社の工場内に託児所を開設しました。最大20人の子ども(6カ月～6歳)を預かることができ、従業員はだれでも無料で利用できます。ベビーシッターのほか、カンパニードクターもいるため、安心して子どもを預けられると好評です。これからも子どもを持つ従業員が安心して働ける環境を整備していきます。



託児所内部

## 事業活動の環境負荷低減

YKKグループは、1994年9月に「YKKグループ環境宣言」を制定し、事業活動のすべての領域で環境活動に取り組んでいます。また、2001年度より中期の環境経営方針・環境政策を4年ごとに策定。2013年度からの第4次中期環境経営方針では、コーポレート・ガバナンス、グリーンイノベーション、環境価値の創造、持続可能性を重点テーマとした環境政策を進めています。

## YKKグループ第4次中期環境経営方針

### 持続可能な社会づくりへの貢献 小エネ・省エネを追求したものづくりの創造

YKKグループは、環境宣言に則り、環境に配慮し、技術力を活かした新しい価値を創造することで、持続可能な社会づくりへ貢献してまいります。

#### 4つの重点テーマ

<b>コーポレート・ガバナンス</b> ・グローバルな環境マネジメント体制の強化	<b>グリーンイノベーション</b> ・次世代ものづくり(技術革新)	<b>環境価値の創造(CSV)</b> ・本業を通じた社会貢献(社会における存在価値)	<b>持続可能性</b> ・小エネ・省エネ(CO <sub>2</sub> 削減対策) ・生物多様性対応 ・化学物質リスク対策 ・資源循環対応
---------------------------------------------	---------------------------------------	------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------

### グローバルな環境マネジメントの強化

YKKグループでは、環境経営の質の向上を目指し、環境コンプライアンス・ガバナンスを確認することでグローバルな環境マネジメント体制の強化を図っています。

#### ● YKKグループ環境経営監査(国内・海外)

環境政策委員会のもと、グループ環境経営方針・政策の確実な執行、ならびに環境コンプライアンスを維持・向上するための環境経営システムの実施状況を検証し、不足点を改善しています。また、各極の統括責任者のもと、各地域の環境関連法令や文化の違いを踏まえ、極内の各拠点がお互いに遵法性、環境活動を検証し、環境コンプライアンスの維持・向上、環境リスクの低減を図っています。



環境経営監査(EMEA)



環境経営監査(中国)

### サプライチェーンを通じての排出管理

YKKグループでは、サプライチェーン全体の温室効果ガス排出量を算定・報告するための国際基準「Scope3」を2013年度より導入。従来の直接排出(Scope1)と購入電力や熱の使用による間接排出(Scope2)に加えて、資材調達、中間製品の加工、輸送、製品の使用と廃棄に伴う温室効果ガス排出量を算定しました。その結果、原材料・資材の調達に伴う排出が、グループ全体の排出量の75%以上を占めることがわかりました。

これを受けて、2014年度から、原材料・資材調達の部分に焦点を当て、各事業で排出削減に取り組んでいます。

窓の使用段階においては、断熱性の高い商品の提供による、家庭やオフィスなどでの空調エネルギーの削減を通じてCO<sub>2</sub>削減に貢献しています。

(注) 詳しくは、下記環境省サイトをご覧ください。  
[http://www.gvc.go.jp/business/files/jp2014/pdf\\_ykkap.pdf](http://www.gvc.go.jp/business/files/jp2014/pdf_ykkap.pdf)

#### Topic

### YKKセンターパーク「丸屋根展示館」のカーボン・オフセット

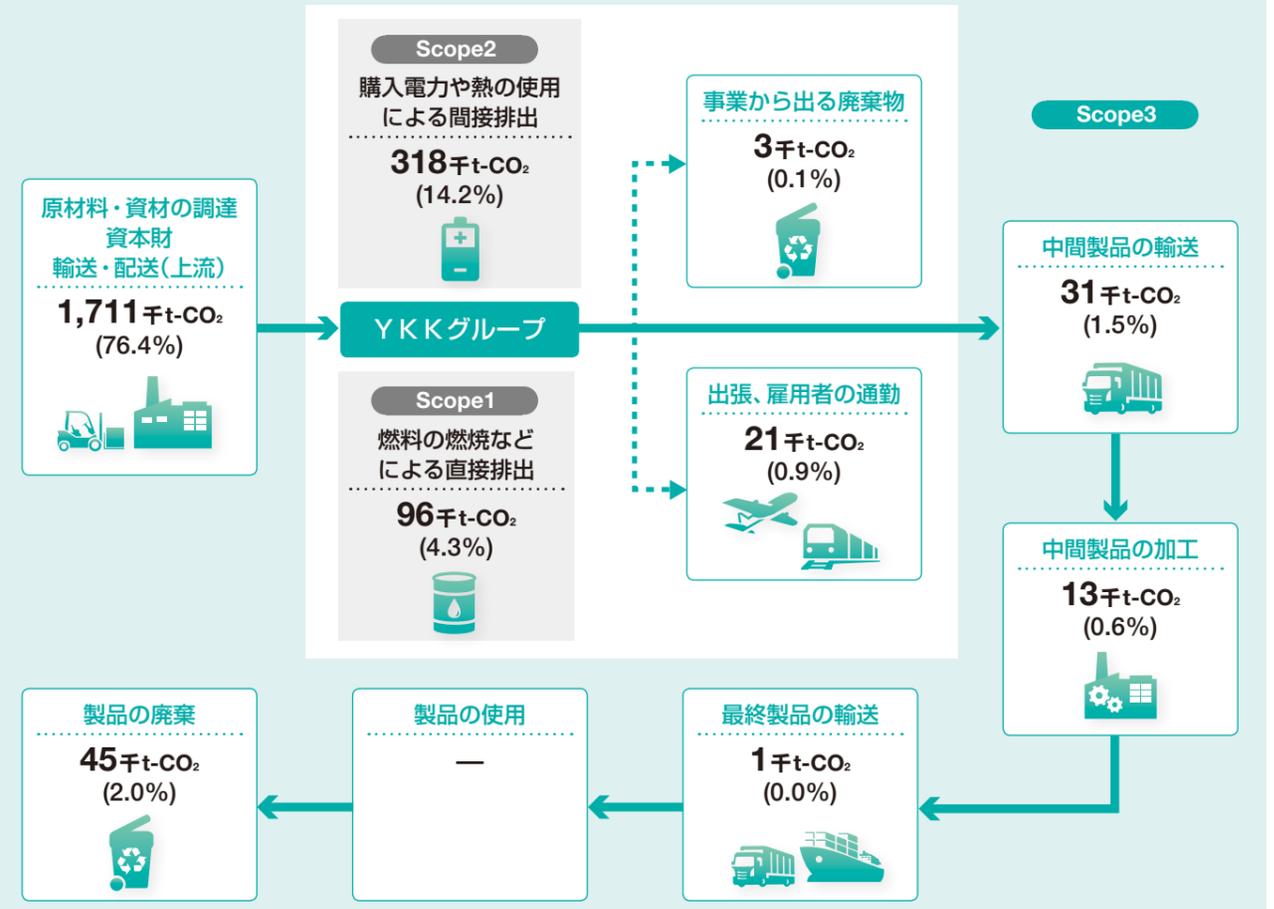
黒部事業所YKKセンターパーク内の「丸屋根展示館2号館」では、同館の電力使用に伴い排出されるCO<sub>2</sub>をカーボン・オフセット\*しました。また、館内ではカーボン・オフセットの取り組みをわかりやすく展示することで、地球温暖化防止及びカーボン・オフセットの普及に貢献してまいります。

\* 自らの温室効果ガス排出量の全部または一部を他の場所での排出削減・吸収量でオフセット(埋め合わせ)すること  
 本取り組みは、環境省によるカーボン・オフセット認証を取得しています。  
 認証有効期間: 2015年4月1日～2016年3月31日



YKK株式会社 黒部事業所  
 認証番号: CO-0153

### サプライチェーンにおける2014年度CO<sub>2</sub>排出量(YKKグループ)



(注) 算定方法等の詳細は、環境省グリーン・バリューチェーンプラットフォームの取組事例(YKK、YKK AP)に掲載されています。  
[http://www.gvc.go.jp/business/case\\_smpl.html](http://www.gvc.go.jp/business/case_smpl.html)

事業による生態系への影響を継続的に調査し、その低減に努めるとともに、環境リスクを低減するため、適正な化学物質管理、資源循環、環境債務の処理に取り組んでいます。

## 生物多様性の保全

### ● 黒部川扇状地の地下水調査

富山県黒部市のYKKグループ各拠点では、黒部川扇状地の豊富な地下水を利用して製造を行っています。この地下水は黒部川扇状地やその沖合で豊富に湧き出し、人間活動をはじめ、陸から海に至る動植物にとって欠かせない資源であるため、YKKグループでは適正利用を目指して、調査および保全活動を行っています。

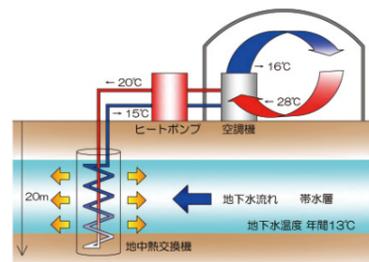
そのひとつとして、2011年より富山県立大学の協力を得ながら、地下水の調査を行っています。この調査では、地下水の水収支解析、涵養源の特定などを行い、生態系ならびに地域住民の生活に影響を与えない将来的な健全な地下水使用量の推定を目指しています。



調査の様子

### ● 地下水の地中熱利用

上述の調査結果より、地下20メートル以浅でも地下水が豊富にあり、また流速が速いことが判りました。そこで、YKKグループではこの地下水の持つ高いエネルギーの潜在力を利用した地中熱空調の導入を進めています。2012年度には工場内の「丸屋根展示館」において、地中熱を利用した空調システムを実験的に導入した結果、電気利用料で31%の削減に成功しました。これを受け2014年度はリニューアルに伴い、より施工性や効率を高めた空調システムを追加で導入しました。今後も周辺への影響を注視しつつ、利用拡大につなげていきます。



冷房時のイメージ図(左)と工事の様子(右)

### ● IPMに基づいた緑地管理

黒部事業所では、失われつつある自然の再生を目指し、「ふるさとの森」「ふるさとの水辺」を2008年に整備しました。これらは順調に成長してきましたが、一般開放している「YKKセンターパーク」内にあることから、病害虫対策が必要となりました。そこで、生態系への影響の少ない緑地管理方法としてIPM(総合的病害虫管理: Integrated Pest Management)の考えに基づいた緑地管理方法を2014年度に策定しました。今後は、国内製造拠点を中心にこの手法を各拠点に展開していきます。



「ふるさとの森」



「ふるさとの水辺」

### ● ふるさとの森づくり

「ふるさとの森」「ふるさとの水辺」では、周辺地域の山野から採取した種から森づくりを行っています。これらの森は、樹木の生長と定期的な生息する生物のモニタリングを通じて成長を見守っています。また、毎年8月には地域の小学生を対象とした環境教育や工場見学などを実施していることから、2014年度は「生物多様性アクション大賞2014」の「まもろう」部門において入賞しました。また、富山県からは「水と緑の森づくり表彰」をいただき、外部からも高く評価されています。



「生物多様性アクション大賞」入賞マーク



生物モニタリングの様子

## 環境債務と資源循環

### ● 適正管理と処理の推進

YKKグループではフロン類、アスベスト、土壌汚染およびPCBを環境債務として取り扱い、適正管理と処理を行っています。

### ● PCB対策

YKKグループの高濃度PCB(ポリ塩化ビフェニル)含有機器は2008年より処理を開始し、2014年度末までに667台中638台の処理を行いました。全国3拠点にある残り29台(2015年3月末現在)についても、適正に処理を行っていきます。

微量PCB含有機器については「YKKグループ微量PCB含有機器取扱指針」に基づき、適正な保管・管理を行っています。2013年度末に現在処理することが可能な微量PCB含有機器(379台)の処理費用を引当金として計上し、2014年度は130台の処理を完了しました。

今後も適正な保管・管理を維持しながら、早期処理に向けて取り組んでいきます。

#### <高濃度PCB含有機器>

- 現在までの処理費用: 約3.9億円
- 残りの推定処理費用: 約0.2億円

#### <微量PCB含有機器>

- 現在までの処理費用: 約1.2億円
- 残りの推定処理費用: 約4.5億円



黒部事業所微量PCB含有機器搬出作業の様子

### ● 海外環境債務

YKKグループでは海外拠点における環境債務を把握するとともに、健康被害につながる可能性がないことを確認しています。今後は、各拠点において適正な保管・処理を行うつつ、各国の状況を考慮しながら処理を推進していきます。

### ● 排出事業者の社会的責任

YKKグループでは、産業廃棄物の適正な管理・処理管理を目的に電子マニフェストを導入しています。

2014年度、国内全拠点で電子マニフェストの運用体制が完了しました。今後は、収集運搬業者、処分業者へ働きかけを行い、2016年度末までに電子マニフェストの利用割合を80%以上とする目標に取り組んでいきます。また、毎年計画的に廃棄物処理委託業者に対し、チェックリストを基に、契約書やマニフェストの管理、廃棄物の保管・処理状況、環境・危機管理対策や周辺地域との関係などの現地確認をしています。

## Topic

### 水銀フリーに向けた取り組み

YKKグループでは、2016年に発効予定の水俣条約に先立ち、水銀フリーに向けたガイドラインを策定しました。使用中の水銀含有機器の適正管理、代替機器への転換、使用後の機器の適正処分を確実に実行し、水銀による汚染を防止し、将来的な水銀フリーの実現を目指します。

### データ編もご参照ください

CO<sub>2</sub>その他の排出物管理や環境負荷削減、PCB以外の環境債務(フロン対策、アスベスト対策、土壌汚染)に関する取り組みについては、ウェブサイト掲載の「データ編」(PDF)にて詳しく開示しています。

#### データ編掲載項目

- 基本指標/人事・安全衛生
- リスク情報
- 環境マネジメント
- 環境負荷情報



<http://www.ykk.com/japanese/corporate/csr/eco/report/index.html>

## 共に考える「地域社会の中のYKK」



YKKグループは、対話を通じてステークホルダーの皆様と意見を交換するステークホルダー・ダイアログを2010年より毎年開催しています。第6回目(2015年5月8日)のダイアログでは、前年に続きファシリテーターとして九里 徳泰先生をお迎えし、調達先から消費者、地域社会、環境団体、学生などあらゆる層のステークホルダーにご参加いただきました。

午前中に黒部事業所が所在する黒部川扇状地をご見学いただいた後、午後からワークショップ形式でステークホルダーの皆様と社員とで意見交換を行いました。

### 参加者の皆様(敬称略):

- ナチュラリスト: 松木 紀久代(黒部峡谷ナチュラリスト研究会 副会長)
- 消費者: 稲垣 里佳(富山県地球温暖化防止活動推進員)
- 近隣自治体: 高本 美智子(黒部市役所 市民生活部市民環境課 課長補佐・環境係長)
- 環境団体: 万尾 和恵(公益財団法人とやま環境財団協働交流課長)
- 地域住民: 大上戸 久雄(村橋自治振興会 会長)
- 調達先: 里坊 拓美(関西ペイント販売株式会社 北陸営業所 富山グループ係長)
- 学生代表: 大石 直人(富山県立大学大学院工学研究科環境工学専攻1年)
- 海外留学生: 宋 笑晶(富山県立大学工学部環境工学科特別研究生)
- ファシリテーター: 九里 徳泰(相模女子大学学芸学部 教授/富山県立大学大学院工学研究科 非常勤講師)

### セッション①

## 黒部川扇状地めぐり

午前中は、黒部川流域をめぐる「ジオ&みずはくツアー」を運営する黒部川扇状地フィールドミュージアム事業推進協議会(みずはく)の長谷川 憲二氏と稲葉 泰一氏にガイドしていただき、「水の大循環」をテーマに各地を見学し、地域社会の中でのYKKの存在価値を探りました。

### 森が育む水——「水の大循環」を体験する

「ジオ&みずはくツアー」は、黒部川扇状地の成り立ちと水・自然・歴史を約半日かけて紹介する内容となっています。この日は、黒部川上流の「とちの森」(水源の森)を宇奈月ダムから視察した後、黒部川に沿って愛本橋と黒部川堤防、豊かな水資源を利用した水力発電所や水田が広がる田園地帯などを見学しました。



1 とちの森(水源の森)・宇奈月ダム



2 愛本橋



3 黒部川堤防



6 生地湧水(共同洗い場)



5 扇状地に広がる水田



4 低落差水力発電所

### セッション②

## YKKグループに期待すること (ステークホルダーの皆様からのご意見)

午後からは、ステークホルダーの皆様が3つのグループに分かれ、午前中の黒部川扇状地めぐりをもとにワークショップ形式でYKKグループ社員と意見を交換しました。

### 「開かれた企業へ」

#### 境界線を無くし、「見える化」を徹底



「森」と「水」とのつながりを、今回の見学で実感しました。この「つながり」を、「ふるさとの森」などでもっとアピールしてほしいです。

開かれた企業にするには、まずはYKKグループの社員に会社のことをよく知ってもらい、社外に広めてもらうことが重要だと思います。

黒部川流域全体をひとつの「森林」としてとらえる一方、黒部事業所の「ふるさとの森」をより外向きにしてほしいです。森が成長するには、間伐だけでなく、外の人がかかわりやすいといった意味での「スキマ」が必要です。会社の壁を取り払い、外から見えるようにすることで、より開かれた企業になることを期待しています。

### 「森を守る」

#### まずは「知る」ことから始まる



森と水、山と海の循環とつながりについて、まずは知ることが重要だと思います。

たとえば、森と海がつながっている

ことを知れば、漁業と林業が連携した包括的な取り組みが進むと思います。

YKK単独ではなく、できる限り多くの、幅広い層の人々を巻き込む工夫が求められると考えます。

### 「コラボレーション・協働」

#### 数値だけでなく、「わかりやすさ」が必要



環境データなどの数値の開示だけでなく、あらゆる年齢層に訴える「わかりやすさ」が必要だと感じます。それには、「遊び」の要素

も必要です。体験型のイベントを増やすほか、遊具やベンチなどを設けてみてはいかがでしょうか。

地元行政との連携や出張講座なども、協働のきっかけになると思います。

### YKKに望むこと/YKKをもっと知ってもらうには?

#### 1 YKKのファン/リピーターを増やす努力を!

- 道路沿いにYKKセンターパークをPRする看板を設置しては?
- 四季を感じるセンターパークにしてほしい
- 直接ふれて、体験できるイベントを増やしてほしい
- 商品だけでなく、製造面での環境配慮をもっとPRしてほしい

#### 2 地元・黒部全体をもっと活性化してほしい

- YKK単独ではなく、地元行政・企業との連携などさまざまな形での協働が必要
- 住民から商品アイデアを募るなど、双方向のコミュニケーションに期待
- 地元の子どもが将来就職したいと思う会社でいてほしい



## 2014年度活動報告

YKKグループでは、毎年のステークホルダー・ダイアログで頂いたご意見を事業活動に反映し、その結果をステークホルダーの皆様へ報告しています。2014年度は、黒部事業所内の「YKKセンターパーク」および「ふるさとの森」の活用を中心に、ご意見を頂き、センターパークのリニューアルなどに取り入れました。

2014年度ステークホルダー・ダイアログを受けて	
ご意見	ご意見への対応
① 「YKKセンターパークは一般開放されているが、ゲートが入りにくい印象を与える」	センターパークのリニューアルに伴い、正門守衛・ゲートを撤去しました
② 「地域とのコミュニケーション(PRを含む)が弱い印象」	マスコミへの情報提供の頻度を高め、テレビ、新聞、雑誌などへの掲載件数を増やしています
③ 「「ふるさとの森」が工場の敷地内全体に広がるとよい」	工場建屋の改修時に緑地の確保を織り込むこととしました
④ 「社員とその家族向けのイベントもあった方がよい」	社員とその家族を対象とした「ふるさとの森探検ラリー」を企画しています
⑤ 「あらゆるステークホルダーが森づくりに関与できるとよい」	地域住民と一緒に防風林(クロマツ)の植樹活動を始めました
⑥ 「吉田科学館とコラボしてみては/ホテルの季節はセンターパークの開園時間を延長してみては」	「とやまエコキッズ探検隊」を吉田科学館(みずはく)と共同実施。また11月末までの火・木曜日のセンターパーク開園時間を19時まで延長しています

### ステークホルダー・ダイアログを通して



九里 徳泰 くのり のりやす  
(相模女子大学学芸学部 教授/富山県立大学大学院工学研究科 非常勤講師)

YKKグループのステークホルダー・ダイアログは、2010年の開催から6回目となりました。本ダイアログの大きな目的は、企業の成すべきこと、目指すべき姿を、ステークホルダーの方々と共に考えていくことにあります。YKKグループにおいては、本ダイアログを6年間継続して行い、社会からの意見を企業行動に反映していることを高く評価します。

本年度のダイアログでは、午前中に事業所が立地する黒部川扇状地を形作る黒部川の水循環を上流から河口まで視察し、午後現場の社員も交え、「地域社会でYKKグループがすべきこと」を3グループで話し合いました。開かれた企業へ、森を守ることが健全な水循環につながる、企業活動の「わかりやすさ」などが指摘されました。そのような課題の解決のためにYKKグループはすでに多くの企業活動を行っていますが、社会での認知度を高めるためにも黒部事業所をはじめ既存のプロジェクト、施設にもっと多くの方が参画してもよいのでは、という指摘も出ました。ステークホルダーからの指摘を受けて改善がなされることを期待します。また、海外展開をしているYKKグループは、ステークホルダー・ダイアログを海外でも展開していただき、さらなる前進をしていただきたいと思います。

### Topic

#### 森が育む豊かな水資源

黒部川は、北アルプスの氷河と麓に広がる原生林の森を水源としています。上流を降る雨の約半分は「とちの森」で吸収され、地下水となってゆっくりと河川へ流れ出し、やがて海に戻ります。また、多様な植物が育む豊かな土が、下流の農地や漁場に必要栄養分をもたらしています。海から山へ、山から海へ。水と命の大循環をつなぐ大切な役割を、森が担っています。豊かな森が育む水資源は、いまでも地域の生活と経済活動にとって欠かせないものとなっています。



黒部川扇状地全景

### YKK 精神

## 「善の巡環」

### 他人の利益を図らずして自らの繁栄はない

企業は社会の重要な構成員であり、共存してこそ存続でき、その利点を分かち合うことにより社会からその存在価値が認められるものです。YKKの創業者 吉田忠雄は、事業をすすめるにあたり、その点について最大の関心を払い、お互いに繁栄する道を考えました。それは事業活動の中で発明や創意工夫をこらし、常に新しい価値を創造することによって、事業の発展を図り、それがお客様、お取引先の繁栄につながり社会貢献できるという考え方です。このような考え方を吉田忠雄は「善の巡環」と称し、常に事業活動の基本としてまいりました。私達はこの考え方を受け継ぎ、YKK精神としています。

### 経営理念

## 「更なる CORPORATE VALUE を求めて」



YKKは、更なる CORPORATE VALUE (企業価値) を求めて、7つの分野に新たな QUALITY (質) を追求します。

### 「企業の社会的責任」サイトをご覧ください

「企業の社会的責任」サイトでは、本業を通じた持続可能な社会への貢献に対するグループ方針を紹介しています。ガバナンス体制やコンプライアンスの詳細については、このサイトをご覧ください。

#### 「企業の社会的責任」サイト掲載項目

- トップメッセージ「YKK精神に基づく企業の社会的責任」
- YKKグループの活動
  - 組織統治
  - 人権・労働慣行
  - 環境
  - 公正な事業慣行
  - 消費者課題
  - コミュニティ参画



<http://www.ykk.com/japanese/corporate/csr/index.html>



(注) 財務情報については、ウェブサイト「会社情報」をご覧ください。  
<http://www.ykk.com/japanese/corporate/financial/index.html>